



# 地球市民



江別ユネスコ協会会報 第50号 (2017・1・25) 事務局・江別市教育委員会生涯学習課内

## 板カルタはどこから来たか

### 北海道の文化史を知る学習会

第2次大戦後、娯楽の少なかった北海道で盛んに行われた遊びに「下の句カルタ」があります。本来は本州と同様に「お正月の遊び」であったが、半年も雪に閉ざされる北海道では、12月頃から3月の雪解けまで、子供から老人まで夢中になって、屋外で遊べない不満をこの競技で発散させたようです。読み札は下の句しか読まず、取り札は縦75ミリ、横50ミリ、厚さ5ミリ程の木の板で作ったものを使うのが特徴で、荒っぽい北海道人の気性に合っていたのでしょうか。この遊びは北海道独特のものではなく、江戸時代の末に北海道に入って来たとも言われていますが、どこで生まれたものか明白ではありません。北海道の文化史研究者の間で、研究テーマのひとつになっています。

江別ユネスコ協会の第115回学習例会は、9月3日14時から野幌公民館において、「板カルタはどこから来たかー北海道的文化の形成ー」というテーマで河野民雄さんのお話を聞きました。河野さんは士別市生まれで北大文学部出身、高校教諭を永く務められた方です。(現在、北海道史研究協議会会員・北海道屯田倶楽部理事)

この板カルタの発祥地は、福島県の会津地方とする説が一時有力でした。会津塗りの椀や下駄を作るときの木切れを利用し、初めは貧乏侍が内職に手書きして、こんなカルタができたのだという説です。NHK日曜ドラマ「八重の桜」のヒロイン

も会津出身で、板カルタの名手という設定ですから、会津でもこの遊戯が行われていたようです。明治の初めに余市に入った会津藩士か、琴似・山鼻に入った会津出身の屯田兵かが持ち込んだとすれば、話は分かり易くなりますが、研究者の宮野勝氏(旭川在住)は、幕末に網走地区の警備に当たった会津藩士が持参したという説を唱えています。

ただし現在会津に住む老人たちは「会津で板カルタが用いられた記録も記憶もない」と言っています。また、福島県立博物館の阿部綾子氏によると、近年、日本海に面した各県で古い板カルタが発見されており、昔、島根県や石川県で使っていたという証言も出ているそうです。河野さんも「板カルタはかつて東北・北陸・山陰地方の日本海沿岸の各地で行われており、北前船と関係があると思う。最近、会津塗りの問屋・室井商店の関係者から聞いた話では、昔は船カルタと呼んで、船中で退屈しのぎに船員が楽しんだものだそうです。いま発祥地を会津地方に絞ることは早計です」と解説しました。この学習会には多数の一般市民が出席し、河野さんに熱心に質問していました。

#### ▼北海道文化の特色を説く河野民雄さん



## チンパンジーは凶暴な動物

### 生物の多様性を学ぶ講演会

江別ユネスコ協会は、5月17日18時45分から野幌公民館で文化講演会を開催しました。テーマは「チンパンジーの研究を通して見えてきたアフリカと日本」で、講師は酪農学園大准教授の郡山尚紀（こおりやま・たかのり）さんでした。

郡山さんは山口大学卒業後、東大大学院農学生命科学科を修了され（獣医学博士）社団法人予防衛生協会、日本モンキーセンター、北大大学院獣医学研究科等に勤務されました。その間、各地動物園やアフリカ各国に赴いて霊長類（動物分類上ヒトとサルの類、約220種が現生）の生態研究を行い、現在は酪農学園大の獣医保健看護学類・動物行動生態研究室に所属し教壇に立っています。

戦後日本の科学は多方面に目覚ましい発展を遂げましたが、霊長類の研究においても大きな成果を挙げたと言われています。中でもチンパンジーはゴリラ、オランウータンと並んで一般市民の関心も高く、学界の研究も進んでいます。郡山先生は、現在その第一線で活躍されていると伺い、今般当協会では、生物多様性保護の面からも、大型類人猿とヒトとの相関性など、興味ある話題を解説して頂きたいと考え、講演会を企画しました。

チンパンジーは霊長目ヒト科チンパンジー属に分類される類人猿で、コンゴ共和国、セネガル、ウガンダ、ルワンダ、タンザニア等に野生し、成獣は体長約80センチ・体重約50キロになります。全身の体毛は黒、顎の毛だけが白で、顔の色は黒か肌色。成長にしたがって額がハゲ上がります。

生活の場は樹上と地上で、寝るときは樹上。食べ物はシロアリの巣に棒を差し込んで捕食することが良く知られ、堅い果実の殻を石や倒木を使って割る知恵を持っています。雑食性で主に果実・花・葉・樹皮・蜂蜜・昆虫を食べ、リス類・サル類・

イノシシ類まで捕えて食べ、集団で狩りをする能力もあります。また、姿が人間に似ていて2足歩行するチンパンジーは、動物園では可愛く見えますが、意外に残虐な性質を持っていて、ライオンと同様に子殺しの行動が見られ、殺した子猿を食べてしまうそうです。人間を襲った事例も多数報告されています。成獣のオスは素手で車のフロントガラスを叩き割るだけの腕力があります。

一方、身体が人間に近い動物実験によく用いられ、ポリオやA型肝炎、B型肝炎のワクチン開発などに役立ちました。最も多く飼育し利用した米国では、動物実験に反対する運動が起き、現在ではC型肝炎と癌性腫瘍の治療法開発だけに限定する方向に向かっていると言います。

この講演会でチンパンジーに関する多数の問題点を解説して頂き、出席者の多くは眼から鱗の思いで生物多様性の複雑さを痛感していました。

## 米国と日本の高校教育の違い

### カンウエイ先生, 大いに語る

江別ユネスコ協会の第114回学習例会は、8月5日18時から野幌公民館において「アメリカ高校教育の裏事情」というテーマで開催されました。講師のビル・カンウエイさんはウイスコンシン州パーカー高校教諭です。パーカー高校はジェーンズビル市にある公立高校で、ビルさんは社会科の先

#### ▼米国の高校教育を説明するカンウエイ夫妻





生ですが、ギタークラブ、日本語クラブ、カードゲームクラブの顧問をしています。

ウイコンシン州はアメリカ中西部の最北にある州で、五大湖地域も含まれますから、寒い地方です。州都はマディソン市、人口が最多の都市はミルウォーキー市。この地域の特徴は、その昔、アメリカ・インディアンが多数活動した歴史があること。ジェーンズビル市は州の最南部にあります。

この地方から江別を訪れる人は珍しいので、学習例会にお招きしてアメリカの国内事情を自由に話して頂きました。銃の流通とか大学入試、部活の問題やモンスターペアレンツのことなど、ビルさんは率直に話してくれました。小中学校と違って高校教育の状況は日本と大差がなく、大学入試は制度が違い、放課後のスポーツは校外の有料クラブで行う点が根本的に違っていています。当日はビルさんの奥さんも解説を手伝ってくれました。

### 世界遺産委員会の動向を学習

江別ユネスコ協会の第113回学習例会は、3月5日13時30分より野幌公民館において「世界遺産の今後の課題」というテーマで当協会の田村邦雄会長の講話を聞きました。2015年はユネスコが設立されて70年になる記念すべき年でしたが、世界各地の紛争は益々深刻になり、2015年6月28日から7月8日までドイツのボンで開かれた第39回世界遺産委員会の冒頭では、ユネスコのボコヴァ事務局長が「今や世界遺産の多くは攻撃、破壊、盗難の危機に瀕している」と演説した程です。

言わばこの文明の危機をどうやって乗り越えることができるかを討議した第39回委員会でした。田村講師はパワーポイントを駆使して第39回委員会の審議内容を解説し、1031件(15年現在)に達した世界遺産の制度疲労とも言える矛盾点と、条約履行のための作業指針の改訂上の問題点を指摘しました。併せて「ボン宣言」採択の事情についても、分かりやすく解説して頂きました。

### 江別ユ協の動き MEMO

(2016年2月～2017年1月)

- ◇「江別国際センター冬の集い」に参画 2016年2月14日13時開催(イオンタウン江別) 主催は江別市国際交流推進協議会、実行委員長は当協会の角田理事。当日は市内の外国人多数と交流。
- ◇北広島ユ協の設立総会 3月12日13時(北広島市・広葉文化センター) 田村会長が来賓出席。
- ◇使用済み切手回収活動 ①回収した約8,000枚をJOCS(日本海外医療協力会)へ4月7日発送。②約9,000枚をJOCSへ11月28日発送。
- ◇江別ユ協役員会 4月14日18時(野幌公民館)
- ◇道ユ協第1回常任理事会 4月24日13時30分(かでの2・7) 田村会長(道ユ協副会長)が出席。
- ◇北海道ユネスコ連絡協議会定期総会 5月19日14時(札幌すみれホテル) 田村会長が出席。
- ◇江別ユネスコ協会定期総会 5月17日18時、(野幌公民館) 事業計画・予算決算などを審議。
- ◇書き損じハガキ回収 5月31日、連盟へ発送。
- ◇「みどりの絵」コンクールのPRに協力 三菱環境財団・日ユ連盟主催の絵画コンクールに応募を勧める文書を市内全小学校長へ6月6日発送。
- ◇恵庭ユ協チャリティパーティ 7月1日18時30分(恵庭市民会館) 田村会長が出席。
- ◇恵庭ユ協・養老孟司氏講演会 7月2日(恵庭市民会館) 創立30年記念事業、田村会長ほか出席。

#### ▼世界市民の集いで角田・実行委員長と会長



- ◇**江別市国際交流推進協議会創立 20 周年記念式典** 7月2日午後7時(会場・Cプラザあおい)
- ◇**私のまちのたからもの・スライドショーコンテストのPRに協力** 三菱環境財団と日ユ連盟が主催するコンテストへの参加を勧める文書を市内全小中学校長へ7月17日に発送。
- ◇**道ユ協第2回常任理事会** 7月23日14時(かでの2・7) 田村会長(道ユ協常任理事)が出席。
- ◇**第4回ESDユネスコスクール研修会のPRに協力** 道ユ協・ESD推進センター主催の研修会の案内文書を市内の小中学校長へ9月30日発送。
- ◇**「えべつ世界市民の集い2016」に参画** 江別市国際交流推進協議会主催の国際交流の集いに加盟団体として参画。10月16日12時30分開催(野幌公民館)当日は会員多数が出席し外国人と交流。
- ◇**全道の事務局長会議** 10月8日11時(恵庭市)
- ◇**北海道ユネスコ大会** 10月8日・9日(恵庭市民会館・島松神田館) 田村会長ほか2名出席。
- ◇**国連デー記念講演会** 10月24日13時(札幌グランドホテル)国連協会北海道本部主催。①「国連と日本の60年」講師:星野俊也・大阪大大学院教授、②「スポーツで世界を平和に」講師:野々村芳和・㈱コンサドーレCEO。田村会長が出席。
- ◇**蒼樹大学講座に協力** 11月10日田村会長出席。
- ◇**中学校へ出前講話** 12月7日午後、江別第三中の道徳の時間に田村会長が出講。平和と国際理解を解説、世界の宗教史と外国語の学習を勧める。
- ◇**第4回ESDユネスコスクール研修会** 11月5日(道教育大・駅前サテライト) 田村会長が出席。
- ◇**第39回札幌インターナショナル・ナイト** 12月11日12時(京王プラザホテル)道青少年科学文化財団主催(道ユ協は共催) 田村会長が出席。
- ◇**カレンダーの国際交換** 2017年版の絵入りカレンダーをインド、韓国、米国へ1月24日発送。
- ◇**道ユ協・新年午餐会** 2017年1月28日11時(札幌グランドホテル) 田村会長が出席。
- ◇**北海道高校ユネスコ研究大会** 2017年2月4日・5日(北海商科大学) 田村会長が出席予定。

## 「第50回北海道ユネスコ大会 in 恵庭」に参加して

江別ユネスコ協会会長 田村 邦雄

第50回北海道ユネスコ大会が、創立30周年を迎えた恵庭ユネスコ協会の主管により、10月8日9日の両日、恵庭市民会館に全国・全道から会員及び関係者約160名を集め、盛大に開催されました。

基調講演に立った道教育大の大津和子副学長は、「万人のための教育」は国連ミレニアム開発目標に基づき2015年までに世界中の全ての人たちが基礎教育を受けられるように、各国政府や国連機関が取り組んできたが、中心になったのはユネスコである一と述べ、このプロジェクトがどのように取り組まれ、どのような成果を上げたか、どのような課題を残しているか等について、アフリカでの実地調査を踏まえて具体的に説明しました。

恵庭大会では講演はこの1本に絞り、3段階に設定されたフォーラムを中核にして討議を進めました。「ユネスコ会員の拡充」と「活動範囲の拡大」を主要テーマとして、地味ながらもユネスコ活動の原点に立ち帰った実務的な研修を行いました。

恵庭ユ協は1986年設立の歴史ある協会ですが、全道大会を引き受けたのは初めてで、市を挙げての協力体制が見られ、交流会も好評でした。

### ▼全道大会で安達久美子・日ユ国内委員(中)と



事務局連絡先：青少年係内 ☎381-1069 担当辻本